

2020年11月15日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

### 箴言 30：5～9

ルカによる福音書 11：3

「必要な糧を毎日与えてください」

#### <主の祈りの後半>

わたしたちは、イエスさまが教えて下さった「主の祈り」の内容を、毎週ひとつずつ味わっています。今日は、「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」という祈りです。

主の祈りは、前半と後半に分かれていて、前半は神さまについてのことが祈られています。ルカによる福音書では「父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。」というところが前半でした。神さまのお名前が聖とされますように。あなたの聖なる御名を汚したわたしたちの罪を赦し、救いの御業を現わして下さい。神さまのご支配の内に歩ませて下さい。そして、その御国が完成しますように。

わたしたちは天の父なる神さまを見上げ、神さまのご支配と御業を願い求めるようにと教えられます。わたしたちの心は、神さまへと高く上げられます。

そして、後半はわたしたちについての祈りなのですが、その最初の祈りが「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」という祈りなのです。

ちょっと、なんだか拍子抜けして、急に俗っぽい感じがするかも知れません。神さまのご支配を祈り求めた直後に、わたしたちは急に、自分たちの今日のご飯のことを祈るのです。

#### <食べ物の祈り>

「必要な糧」の「必要な」という言葉は、聖書の他の箇所ではあまり使われていないギリシア語です。これは、わたしたちが存在するために必要なもの、という意味です。

また翻訳によっては、「日ごとの糧」と訳されています。わたしたちが礼拝で唱えている「主の祈り」は「日用の糧を今日も与えたまえ」と言っていて、どちらかといえば「日ごとの」という意味です。「日ごとの糧」と言えば、まさに今日のこの日のためのもの、ということなのです。

そして、「糧」というのは、そのまま訳せば「パン」です。これは、食べ物だけのことでありません。肉体的に必要なすべてのもの。それも、日常生活に必要な衣食住だけでなく、人間関係、仕事、社会、国、何もかも含めた、生きるために必要なすべてのもののことを意味します。

さて、教会の歴史の中では、イエスさまが、ここで急に食べ物のような、わたしたちの肉体的な、この世的なことを仰るはずはないのでは？と思って、この「必要な糧」とは、もっぱ

ら信仰に必要な糧のことである。魂の養いのことである。そんな風に説かれたこともありました。

でも、教会はまたその歴史の中で、それは本当かな？と問いました。

聖書は、わたしたちの食べ物のこと、日々の生活のこと、生きるためにあくせく働いて、心悩ませている、今日生きるということについて、何も語っていないのだろうか？

むしろ、そのような場面にこそ、わたしたちの弱さがあり、欲望があり、また耐え難い苦しみや悲しみがあるのではないだろうか？

そのような日々の中にこそ、肉体的な空腹や、貧しさや、欠けていること、不足していることの悩み苦しみにこそ、人間の世俗の営みの中にこそ、わたしたちは神さまの助けが必要なのではないだろうか？

…ですから、ここはやはり、今日この日のために必要な、わたしがこの世で生活するのに、肉体的に必要なすべてのものを、神さま、どうか今日も与えて下さい、と祈っているのです。

神さまはわたしたちの肉体のこと、食べ物のこと、生活のことを、真剣に取り扱って下さいます。世の生活のことが、わたしたちをどれだけ苦しめ、動揺させ、不安にさせるかをよくご存じです。

だからこそ、まさにこの世俗の中に、食べ物がなければお腹がすき、着る者がなければ不安になり、明日のことを心配するような人間の営みの只中に、神の御子イエスさまが、わたしたちと同じ肉体を取って、来て下さったのです。わたしたちの肉体的な生活の只中に来られたのです。

イエスさまは、わたしたちの空腹、わたしたちの貧しさ、わたしたちの生活をご覧になりました。その苦しみや悲しみや痛みを、ご自分も経験されました。イエスさまは、わたしたちが生きることのあらゆることを見つめ、顧みて下さるのです。それがどれだけ深刻か。どれだけ悩ましいか。どれだけ惨めなことか。イエスさまはすべてをご存知です。

そのイエスさまが、今日生きるために必要なものを、今日の分を確かに与えて下さいと、父なる神さまに祈りなさい、と教えて下さったのです。わたしたちは日々のことを、生活のことを、食べ物のことを、神さまに祈り求めて良いのです。いや、そうしなければならないのです。

それは、天の父なる神さまだけが、わたしたちをお造りになり、生かして下さい、また生きるために必要なものを与えて下さるお方だからです。

#### <神さまへの信頼／必要な糧・日ごとの糧>

わたしたちが、今日生きるために必要なものを、父なる神さまに与えて下さるように祈ることは、今日生きるために必要なものは、父なる神さまから与えられる、と信じることです。

父なる神さまが、世のすべてを所有しておられ、必要なものを、わたしに与えて下さる。今日一日生きることも、この父なる神さまの御手に支えられている。わたしの今日の命は、

神さまによって養われ、生かされている。

このことを知っているからこそ、信じているからこそ、今日生きるのに必要なものを、あなたが今日与えて下さいと、他でもない神さまに祈り求めるのです。

「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」と祈る時、食べること、住むこと、眠ること、体のこと、仕事をする事、人と関わる事、そのわたしのすべてが、父なる神さまの恵みによることを信じる。その神さまに、生きることを全面的に依り頼む。この信仰のことを祈っているのです。

ですから、わたしたちの日々の生活、肉体的なこと、生きることすべては、信仰と直結しています。今日の食べ物を神さまに求めることは、神さまの恵みを信じ、神さまに頼り、自分の命を神さまの御手に委ねて歩むことなのです。それが、わたしたちの信仰生活なのです。

「人はパンだけで生きるものではない。」イエスさまのみ言葉です。

わたしたちは生きるためにパンが必要です。しかしまた、そのパンを与えて下さる神さまの恵みを知り、信頼する信仰が、わたしたちが生きるために必要な糧なのです。

わたしたちは、もし日ごとに与えられるものが神さまの恵みだと知らなければ、それを得られた時は、自分の力や努力の成果だと思い込み、高慢になり、今日も、明日も、自分で自分を養えると信じてしまいます。神さまに真剣に頼り、求めることを止めてしまいます。本当は今日一日も、神さまの御手の恵みがなければ生きられないことを忘れてしまいます。

旧約聖書の出エジプト記で、神さまは荒れ野でイスラエルの民のために、マナを降らせて下さいました。マナは、一日に必要な分だけ集めるように命じられました。もし余分に明日の分も集めたなら、それは腐ってしまいました。

明日の分も集めるということは、神さまが明日もマナを降らせ、わたしの命を養って下さるという約束を信じない、ということです。神さまを疑い、神さまを頼ることを止めて、自分で、明日の自分の命を確保し、養おうとすることです。

しかし、そのように神さまに信頼することを止めることは、わたしたちをどんどん不安へと駆り立てます。そうすると、わたしたちは、自分で先の見えない将来の分も確保しなければ、気が済まなくなります。出来れば明日だけでなく、明後日の分も。出来れば来週の分も。出来れば1年分、できれば10年分も。不安は人を食欲にさせます。そしてそれは、自己中心的な生き方となり、他人と競争をはじめ、奪い合いが起こるのです。

しかし、わたしたちは、まさに日々を、今日を、この日を、神さまが支えて下さる。恵みを与えて下さる。そのこと信じることによって、欲望から解放され、本当に自分に必要なものを知り、頂いている恵みに感謝する生活をする事が出来るのです。

そして、心を締め付ける、食べ物や生活、生きることの苦しみや不安は、祈りを通して、神さまへの強い信頼と平安に変えられるのです。

だから、わたしたちは祈りを通して、神さまが、わたしに必要なものを、必要なだけ、確かに今日一日与えて下さることを求め、願い、そして感謝するのです。

まさに、今日の旧約聖書の箴言で語られていた通りです。

「貧しくもせず、金持ちにもせず／わたしのために定められたパンで／わたしを養ってください。飽き足りれば、裏切り／主など何者か、と言うおそれがあります。貧しければ、盗みを働き／わたしの神の御名を汚しかねません。」

父なる神さまが、今日、わたしに必要なものを、備えて下さり、支えて下さり、生かして下さるといふこと。そのことを通して、わたしの神さまへの信頼が強められ、神さまの御名をほめたたえる者とされること。このことを求め、祈るのです。

#### <感謝>

神さまが今日必要なもの、今日わたしが生きるために必要なすべてを与えて下さると信じることが出来るならば、わたしたちは、自分に必要が十分満たされていることもまた、知ることが出来ます。神さま、今日必要なものは十分与えられました。今日も命を支えて下さり、ありがとうございます。

神さまの恵みが、今日一日のわたしを支えて下さったことを、毎日、祈りを通して発見し、感謝することが出来るのです。

その時、もう一つ、わたしたちはこの祈りが「わたしたち」「我ら」の祈りであることに目を向けることが出来ます。

神さまの子どもたちが、イエスさまの弟子たちが、共に祈る祈りです。自分が満たされていることを知り、感謝へと導かれたなら、今度は人と分かち合う者とされます。隣人が必要としているものを、自分が満たされ、更に持っているなら、それを与える者となることが出来ます。

わたしたちはこの祈りを通して、自分に必要なもの、持っているもの、満たされているものすべてが、自分の手によるのではなく、父なる神さまの手から頂いたものであり、すべては神さまの持ち物であること。それを贈りものとして頂いたこと。管理するものとして預けられたものであること。用いるようにと託されたものであることに、気付くことが出来るのです。

こうして祈りは、わたし、隣人、兄弟姉妹、神さまが見つめておられる世界のすべての「我ら」「わたしたち」へと祈りが広がっていきます。そして、わたしが隣人のために出来ることへも、目を向けさせられていくのです。

「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。」わたしのために、御子の命までも惜しみなく与えて下さる、父なる神さまです。イエスさまによって神の子とされたわたしたちに、神さまが今日のこの日も、必要なものを与えて下さらないはずはありません。

イエスさまが、教えて下さったこの祈りを通して、わたしたちは、父なる神さまがわたしを恵みによって生かし、養い、支えて下さる方であることを信じ、告白します。

この祈りを通して、わたしたちは、神さまに心からの信頼を寄せて、今日一日も神さまに頼って歩みます。

この祈りを通して、わたしたちは豊かに受けていることを知り、感謝をささげます。

また隣人の必要にも目を向けて、今日、神さまに祝福され、与えられ、生かされたわたしが、今日、どのように生きれば良いかを導きます。

「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。」毎日、この祈りを祈りましょう。

### 【お祈り】

天の父なる神さま

今日もあなたが、わたしたちに命を与え、食べ物を与え、住むところを与え、生活の糧を与えて下さること。生きるために必要なすべてを備えて下さることを感謝いたします。

また、あなたがそのようなお方であることを知るために、イエスさまを与え、み言葉を与え、信仰を与え、祈りを与えて下さったことを感謝いたします。

あなたの恵みのみに、依り頼んで生きる者として下さい。

あなたにすべてを感謝して歩む者として下さい。

また、隣人に、世界の人々に、共に生きる「我ら」に、わたしたちもまた心を配り、そのために祈り、また恵みを分かち合う者となることが出来ますように、導いて下さい。

我らの日用の糧を今日もあたえたまえ。

イエスさまの御名によってお祈りします。アーメン